

# 人権なら

2024年1月1日

第157号

NPOなら人権情報センター

●ひと・まち・生き生き

## 市民の安全保障が喫緊の課題

### 2024年 年頭あいさつ

NPOなら人権情報センター理事長 古川 友則  
力による支配は暴力と怨嗟を募らせるだけです。こうした事態は一体、いつまで続くのでしょうか。

昨年はロシアによるウクライナ軍事侵攻に国際社会は歯止めを掛けることが出来ませんでした。加えて、10月7日のハマスによるイスラエル攻撃に端を發した戦争では、イスラエルの圧倒的な武力によってパレスチナ人へのジェノサイドとも言うべき人道危機が起きています。



国連安保理はガザへの人道支援拡大を求める決議は採択しましたが、即時停戦を求める文言は米国が拒否権行使をちらつかせ、盛り込めませんでした。

### 軍事拡大に反対し、平和な社会建設に頑張る

日本では、どうでしょうか。2021年12月に「安保関連三文書」が改定され、軍事費の倍増、敵基地能力の保有など、戦後の安全保障政策は大転換しました。「台湾危機は日本の危機」と声高に叫ばれ、沖縄＝琉球列島は「ミサイルの島」に変貌させられています。

「国家の安全保障」ではなく、「市民の安全保障」こそが、喫緊の課題ではないでしょうか。少子高齢化に対する全世代型の社会保障政策、「地球沸騰化」時代と言われる気候変動対策など、事態は深刻です。

軍事拡大による影響は増税や社会保障の切り下げによる生活破壊だけに止まりません。人権思想はもちろんのこと、数々の国家統制にも及んできます。

NPOなら人権情報センターは軍拡に反対し、平和な社会建設の一端を担うべく、頑張る決意です。

## 23年分確定申告相談会を実施

奈良県中小企業者協会(山下力会長)は1月9日から22日まで年末調整相談会を、2月には、消費税、所得税、贈与税に関する2023年分確定申告相談会を開く。支局会員対象の日程は下表の通り。(写真は今年の相談会)



### <2023年分確定申告相談会>

日	時間	対象支局	会場
7 (水)	9:30~ 16:00	川西支局 田原本支局	川西町東人権文化センター
8 (木)	9:30~ 16:00	平群支局 生駒支局	平群町総合文化センター
9 (金)	9:30~ 12:00	五條支局	五條市人権総合センター
	15:00~ 17:30	大和高田支局	西部文化センター
13 (火)	9:30~ 16:00	河合支局 上牧支局	河合町心の交流センター
14 (水)	9:30~ 16:00	奈良支局 杏南分局	杏南老人憩いの家
	13:30~ 16:00	奈良支局 古市分局	
15 (木)	9:30~ 16:00	大和郡山支局	西田中町ふれあいセンター
16 (金)		南井分局 小泉出屋敷分局	
19 (月)			
20 (火)	9:20~ 16:00	石ノ上・市場支局 嘉幡支局	天理市人権センター
21 (水)	9:20~ 16:00	御経野支局	
22 (木)	9:30~ 15:30	三宅支局 田原本九品寺分局	三宅町あざさ苑
26 (月)	9:30~ 15:30	直轄、山添、宇陀、御所、高取、吉野支局、その他の地区	

## 「戦争」を焦点に文化交流

### 4年ぶりの開催で賑わった生き生き交流祭

第29回生き生き交流祭が12月3日、三宅町文化ホールのほか、交流まちづくりセンターMiim o・同広場であった=写真。4年ぶりの開催で400人超が集った。



会場には多くの出店が並んだ。おでん・焼きそば・うどん・ホットドック・豚丼・ちぢみ・みたらし・コーヒーなどが販売され、にぎわいをみせた。

10時からオープニング。創作エイサーチーム「ちゅらら〜」がエイサーを披露。古川友則・実行委員長と森田浩司・三宅町長のあいさつのあと、キャンディーワンのK-POP、フラワーフィッシュのストリートダンス、飛び入りのフラダンスの披露で会場は盛り上がった。

石見文庫のメンバーは図書コーナーで絵本の読み聞かせと紙芝居。ひまわりの家のメンバーはホールでバザー。文化ホールでは、幼児園児の絵画、小学生の作品・絵画、ひまわり美術部の展示のほか、介護事業所「菜の花」と「ぼかぼか」を紹介する展示もあった。

### 「ウクライナを知り、考える」企画でフリートーク

午後は「文化交流」。式下中学校の吹奏楽部と、ひまわりの家美術部がコラボ企画「ウクライナ民話『てぶくろ』」を披露。美術部が劇を、吹奏楽部がバックミュージックを演奏した。



続いて、メイン企画「ウクライナを知り・考える」があった。ウクライナから避難してきた留学生ジェーニャ・ボイチェンコさん、天理大学准教授の日野貴夫さん、映像ジャーナリストの玉本英子さんの3人が語り合った=写真。

ジェーニャさんはロシアの軍事侵攻前のウクライナの様子を映像とともに語った。ウクライナは戦争だけじ

やない歴史ある美しい国であることを知ってほしいと。

日野さんは、ウクライナの戦争前と戦争後について交流祭で学んだ中学生や若い人たちに、戦争の恐ろしさをもっと知って、考えてほしい。知らないことで、戦争に加担してしまうことが最も恐ろしい、と語った。

### いかなる戦争も許さないの声を上げ続けよう

玉本さんは2022年7月、取材でウクライナを訪問。そのときの取材映像を紹介しながら報告した=写真。戦火の中、肉親を亡くすなど、大きな悲しみを抱えながらも、たくましく誇りをもって生きているウクライナの子どもの様子が、玉本さんの話から心に伝わってきた。



3人はそれぞれメッセージを聴衆に投げ掛けた。戦争は悲しみや憎しみしか生まない。一旦戦争になれば、収束することは非常に難しい。いかに戦争を起こさせないかが大事だ。そのためには、多くの人たちが戦争に関心を持ち続け、いかなる戦争も許さないという声を上げ続けることが大切だ、と強調した。

### 無知、無関心、偏見が人権を奪っていくことに

このあと、幼児園児の歌の発表、ひまわりの家と太鼓チーム「コスモス」による演奏があった。ラストは劇団かいほう塾が創作劇「架け橋」を披露した=写真。

この劇はハンセン病患者に寄り添い生きた三宅出身の忍性と、奈良出身の元患者の生きざまを題材にした創作劇だ。4年前に上演したものをコロナ下で感染症に対する差別意識が露わになったことを踏まえ、いかに無知、無関心、偏見が人権を奪っていくのかを訴えるものだった。



今回の交流祭はウクライナ問題を取り上げ、盛況だった。天理大学が行っている「ウクライナ避難民受け入れの国際支援募金」にも協力。集まった募金34,877円は天理大学に寄付された。

## 女性の貧困～母子家庭の現状

### 中野冬美さんが河合町人権学習講座で講演

第5回河合町人権学習講座が12月1日、中央公民館であった。今年度の最終回は、女性のための相談室もくもく共同代表の中野冬美さんが「女性の貧困～母子家庭の現状から見えること」と題して講演した。



2022年度男女共同参画白書によると、就業率は男性が83.9%に対し女性は78.6%。女性の正規雇用は25～29歳の58.7%をピークに低下する。男女間賃金格差はフルタイムの男性を100とすると、女性は77.5(OECD諸国の女性は88.4)。女性は非正規が多く、男性よりも安い賃金で働いている。

ひとり親家庭になる離婚の原因は配偶者からのDVが多い。就業世帯は86.3%(うち、正社員48.8%)。非正規の収入は100～200万円が49.5%。正規は200～300万円が最多の30.5%。標準家庭の平均収入は785万円。預貯金は50万円未満が40.7%。公的年金に加入していない母親は1割もいる。

### ひとり親家庭は世界一働き者だが貧困状態

中野さんは日本のひとり親家庭は世界一働き者であるが貧困状態だと言う。また、ひとり親家庭の子どもの貧困率は諸外国と比べて圧倒的に高く、養育費を受け取っている世帯は3割にも満たないと。



子どもの貧困率が増えているのは日本だけだ。社会的貧困と経済的貧困が絡み合ったスパイラルを解消していかなければ、と警鐘を鳴らした。

最後に、4月施行の困難な問題を抱える女性への支援に関する法律を紹介。女性の困難は女性であることに起因する。支援に当たっては女性の意思が尊重されるべき。課題として、困難の発見と、継続した支援の必要性、民間団体との協働などを指摘した。

## 日本画に描かれた多様な人々

### 平岡譲・古市歴史研代表が県民歴史講座で話

県立同和問題関係史料センターの第5回県民歴史講座が12月5日、県人権センターであった＝写真。平岡譲・古市歴史研究会代表が「日本画に描かれた多様な人々」をテーマに話をした。



会場には、パネルや掛け軸が展示。パネルは観世能・犬神人(いぬじにん)・節季侯(せきざろ)・万歳・傀儡(くぐつ)・猿飼・春駒・河原者村が並んだ。狩野派の絵師が描いた複製の「洛中洛外図屏風」も展示。掛け軸は万歳・節季侯・春駒・翁舞が揃えられた。

### 万歳・節季侯・春駒・傀儡などの活動を紹介

センターは「部落史の見直し」を行い、「人の嫌がる仕事」や「意味のない存在」とされてきた被差別民の実際の姿を浮かび上がらせた。平岡さん(写真)は、日本画にも多様な被差別民が登場する。その「文化的・社会的役割」や、描かれ方を説明した。



「万歳」は新年を寿ぐため、正月に権門を訪れ、言葉によるキヨメを。「節季侯」は年の暮れに人家を訪れ、門付けを行った。五穀豊穰、産業の守護を願う「春駒」(写真)も「予祝(よしゆく)」を行う門付芸の1つ。この他、庶民生活の安寧を願う「傀儡」、地域社会の秩序を保つ「河原者」など、多様な被差別民の姿と活動を紹介した。



画家の作品への眼差しにも触れた。たとえば、富岡鉄斎の衝立画(猿曳くさるひき)の裏に描かれた書『狙公亦世云 達人乎 猛相随之道 不狐』(そこうく猿回し)また よにいう たつじんか もうあいしたがえてこれのみち きつねにあらず)をみると、「猿回しは世にいう達人だ。それを生業とするが、決して卑しい者ではない」と書かれていると解説した。

# 負の過去は未来への知恵を宿す

## ハンセン病関西退所者原告団が学習会

ハンセン病関西退所者原告団「いちょうの会」の学習会が12月9日にあった＝写真。テーマは『「ハンセン病に係る偏見差別の解消のための施策検討会 報告』は何を提起したのか』。講師は「報告」起草委員の坂元茂樹・神戸大学名誉教授。元国連人権理事会諮問委員会委員で、国連総会で採択された「ハンセン病患者・回復者及びその家族に対する差別撤廃のための原則とガイドライン」を起草した。



## ハンセン病差別は法律が作り出した社会的差別

坂元さんは、日本社会における構造的差別の所在を指摘。ハンセン病差別は「法律が作り出した社会的差別」だ。内務省が1900年に実施した第1回全国調査は「らい病の血統家系を有するもの」を徹底的に調査。その後の「国民総動員的な無らい県運動」に。

強制隔離政策を主導した医師の光田健輔(後の長

### 編集後記 ☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

数々の危機が世界を席卷する。正に危機一色だ。パンデミック、気候危機、食糧危機、エネルギー危機、核の危機、金融危機…。これらは複合し、人々の生命や生活を脅かす。高度資本主義は危機を増殖する。その対応策がさらに危機を招く。絶えない戦争や紛争に加え、大災害も次々と起きる。貧困・格差も広がる一方だ。これらの惨状を前にショック・ドクトリン策動が蠢く。強欲な輩たちは自然を壊し、有限な資源を貪り、地球を汚し、傷つける。こうした不正義がまかり通る。結果、人権も民主主義も自由も危機に瀕す。私たちは共存共栄、ともに生き合える道を探るべきときだ。

島愛生園所長)は「らいは恐ろしい伝染病。民族浄化をめざす文明国の恥」だと。無らい県運動は「民族浄化」論が基調となり、絶対隔離の原動力となった。

## 加害責任は社会の側に。一人ひとりが加害者

ハンセン病差別の現在性として、2003年の黒川温泉での宿泊拒否事件を挙げた。家族訴訟の徳田靖之・弁護士は「差別や排除の直接的な加害責任は『社会』の側にあり、地域社会の構成員である私たち一人ひとりが加害者」だと。回復者やその家族を保護の客体としての「同情論」ではなく、「権利主体論」を提唱した。



ウクライナやガザの現状にも触れ、2023年は世界人権宣言75周年。今、その精神こそ再確認することが重要。「負の過去は未来への知恵を宿す」。人権を語ることは自由と正義、平和を希求することと結んだ。

\*\*\*\*\*

## 當麻寺周辺の史蹟を巡見

### 反差別・人権交流センターがフィールドワーク

反差別・人権交流センター「絆」は11月18日、「當麻寺周辺を歩く」をテーマにフィールドワーク。案内は吉田栄治郎さん。12回目となる今回は19人が参加した。



道中、強い風雨とあられに見舞われたが、當麻山口神社－傘堂－當麻北墓(写真)－當麻寺のコースを巡見した。終了後、昼食しながら、交流した。

### ニュースレター「人権なら」

発行:NPO法人なら人権情報センター  
〒636-0223  
奈良県磯城郡田原本町鍵301-1  
TEL:0744-33-8585/FAX:0744-32-8833  
E-mail:info@nponara.or.jp  
http://www.nponara.or.jp/